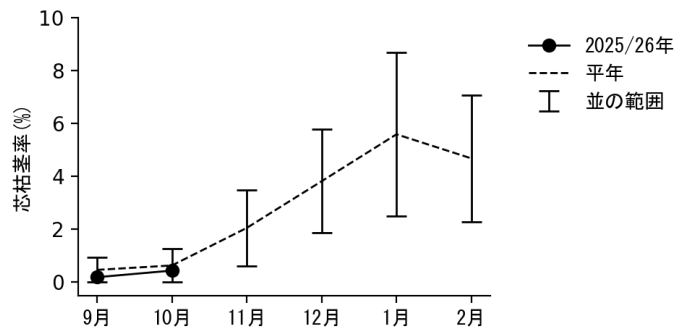


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	①　メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予　報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（ノ）		

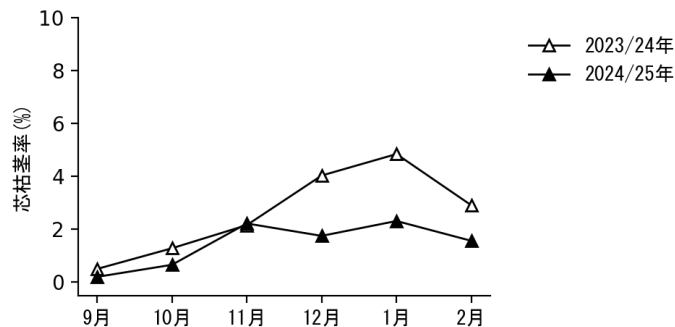
調査結果

芯枯茎率の推移（夏植え）

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ
- ・発生ほ場率25.0%（平年：37.6%）

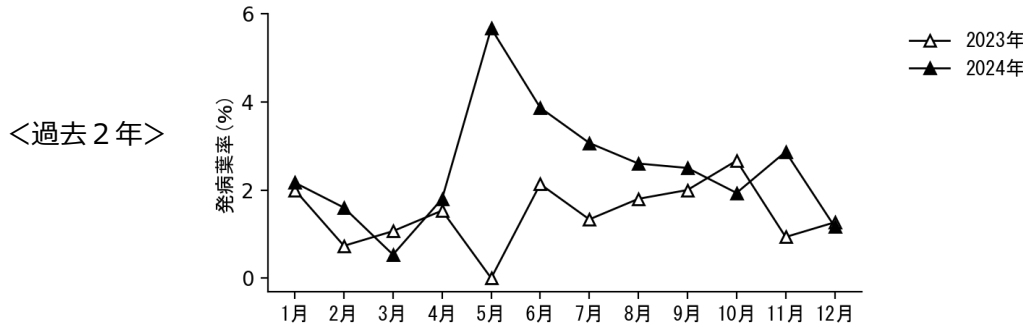
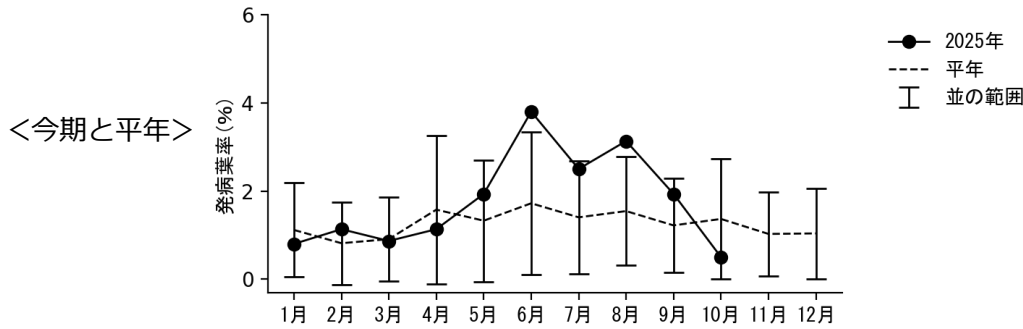
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 葉の発病度0.1（平年0.4）
- ・ 発生ほ場率50.0%（平年：52.9%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

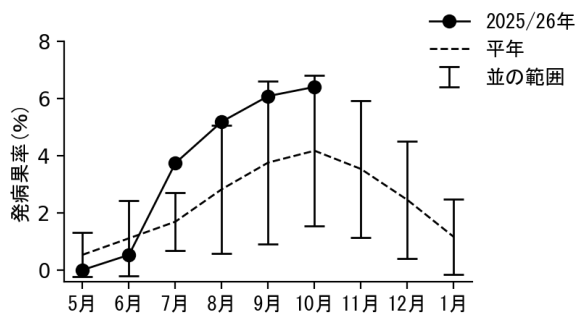
被害果→



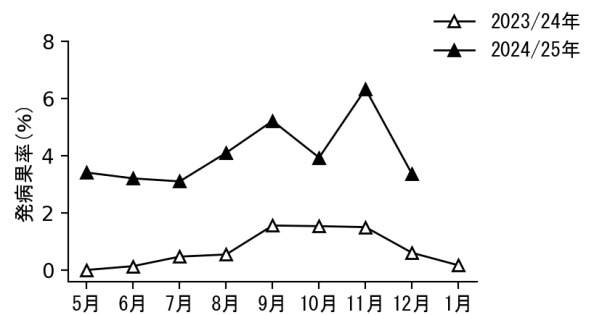
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

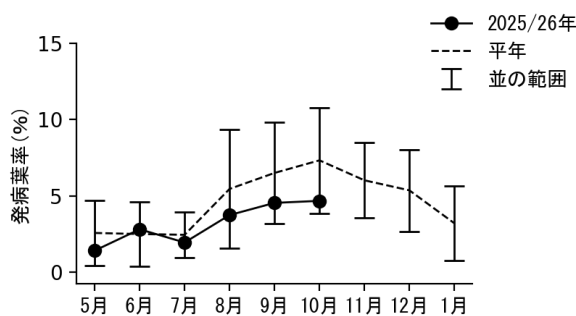
発病果率の推移（今期と平年）



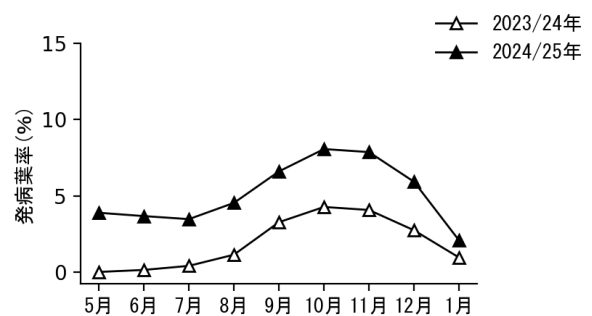
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度1.3（平年0.9）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：88.0%）

防除のポイント

・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

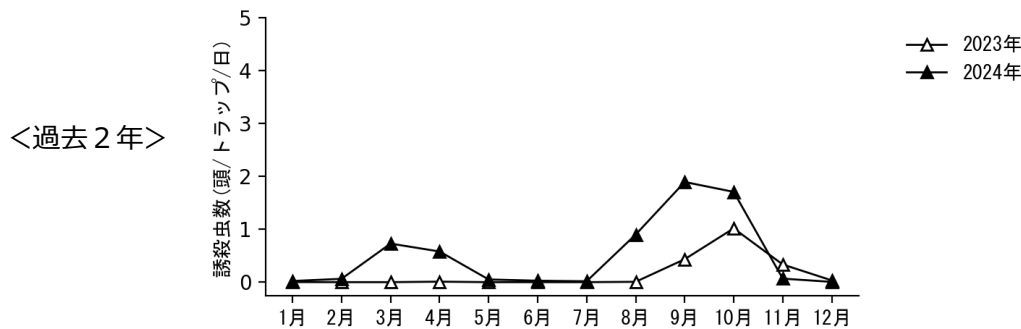
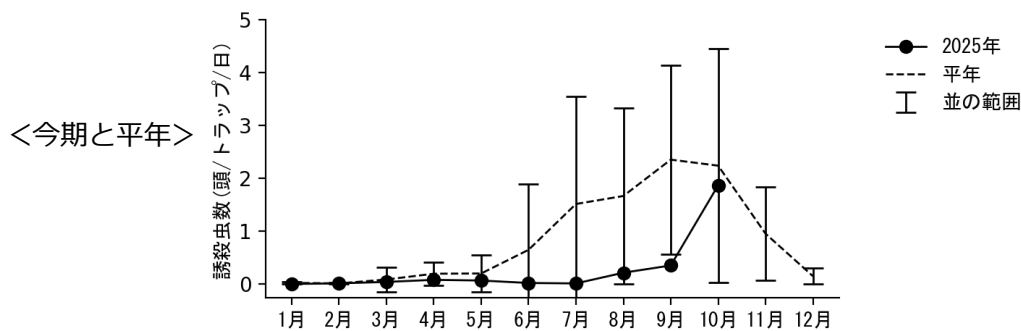
被害葉→



作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100%（平年：97.5%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



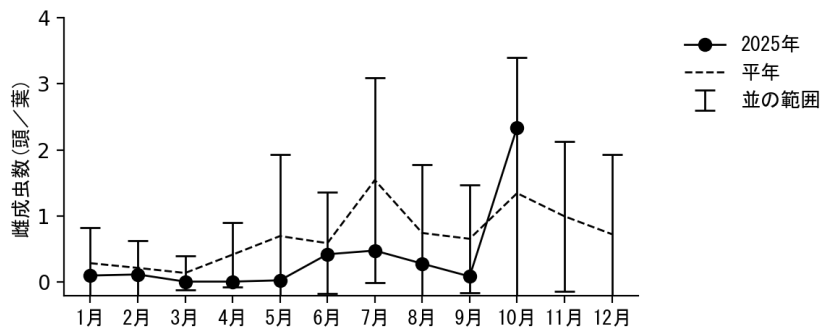
ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

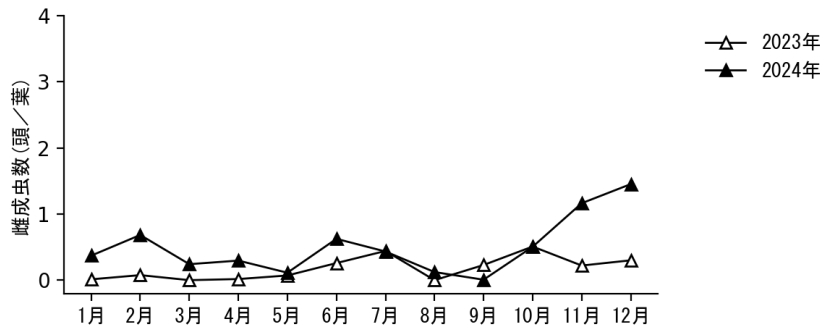
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0%（平年：54.5%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

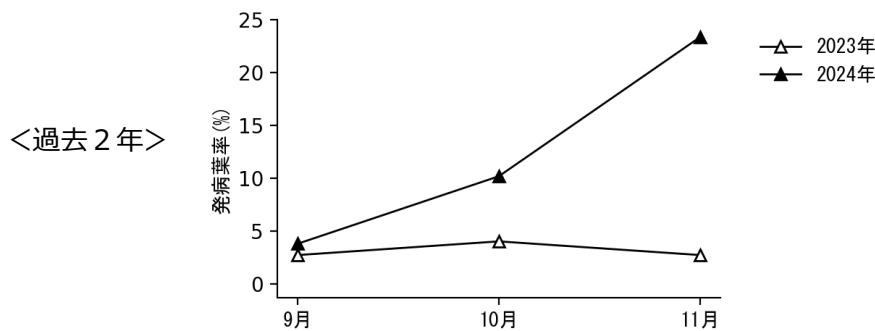
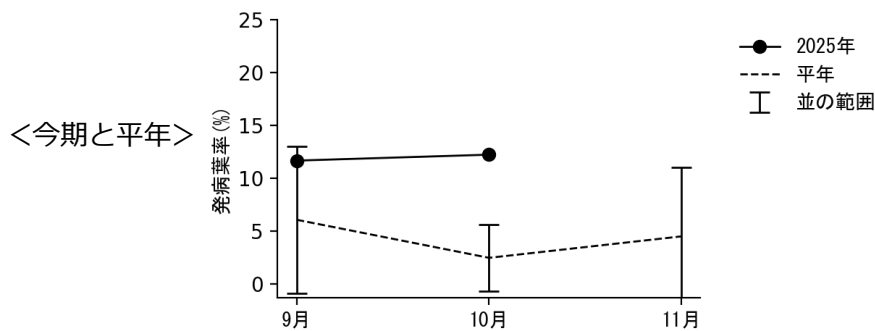


マンゴーツメハダニ

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生ほ場率60.0%（平年：37.0%）
- ・一部圃場で多発

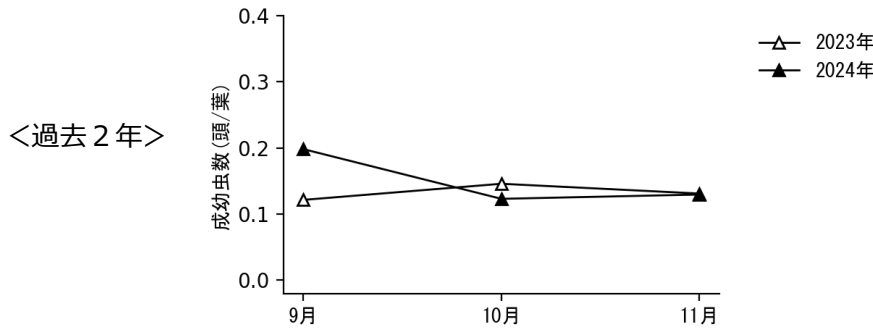
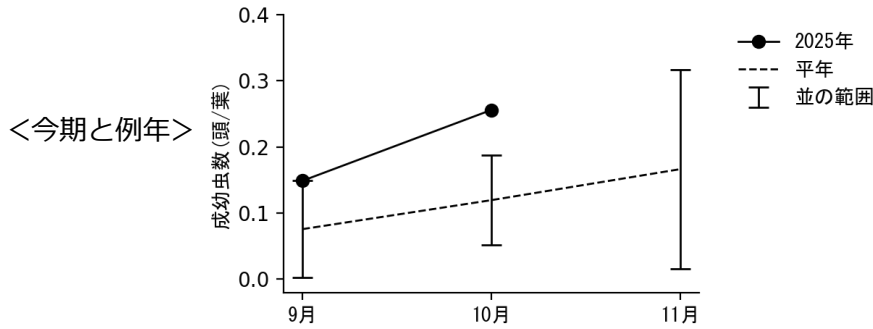
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 クロゲハナアザミウマ	
調査結果	10 月の発生量（例年比）	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（例年比）	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100%（平年：95.1%）

防除のポイント

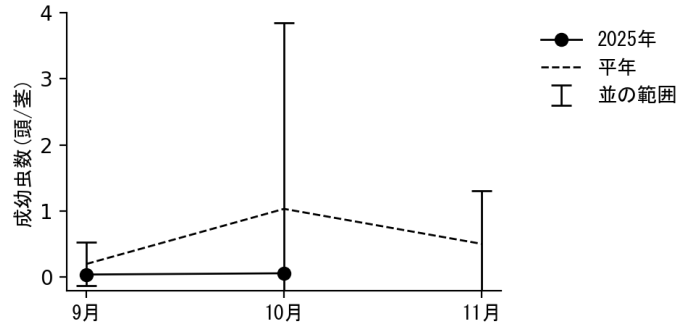
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

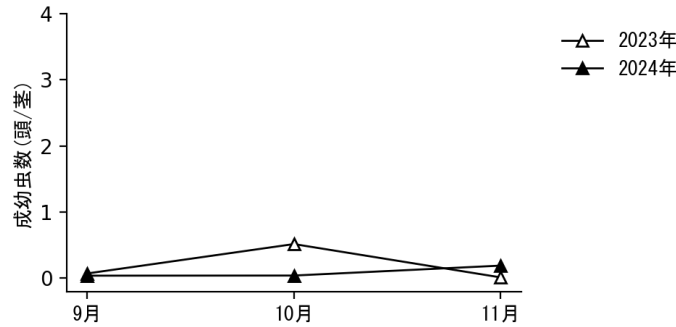
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率60.0%（平年：55.6%）

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

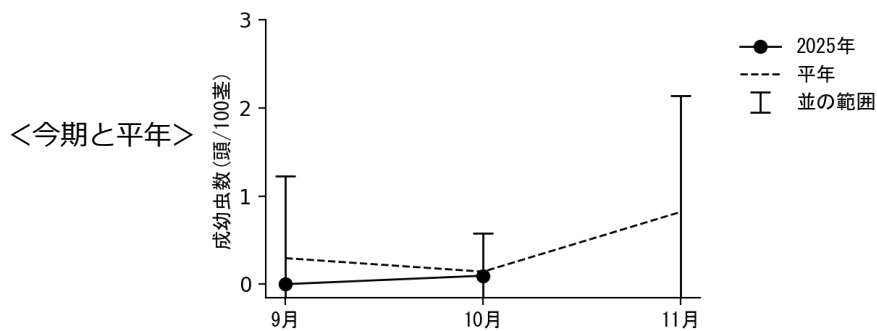


寄生の様子

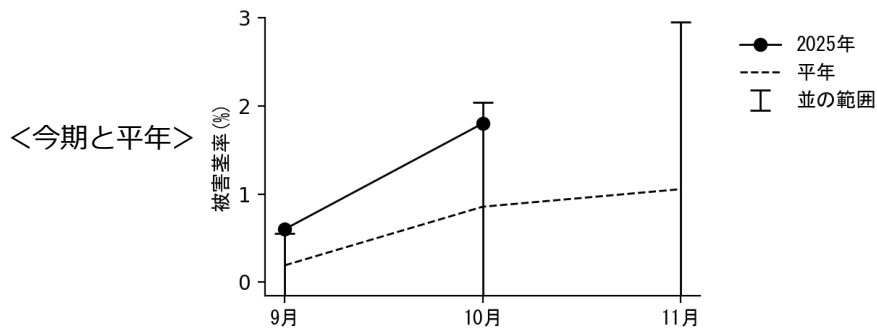
作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	④ カスミカメ類		 ウスモンミドリカスミカメ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：5.6%）

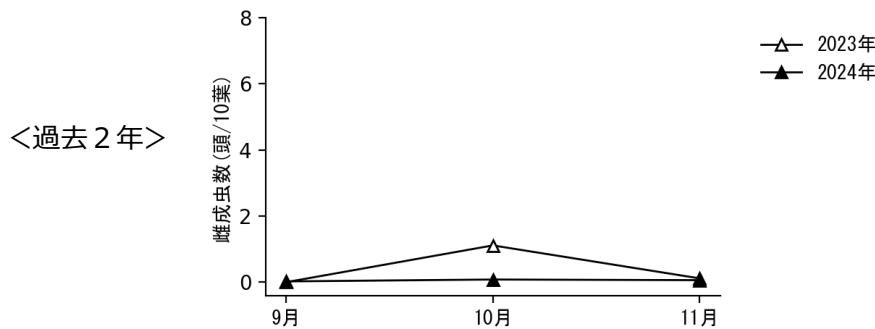
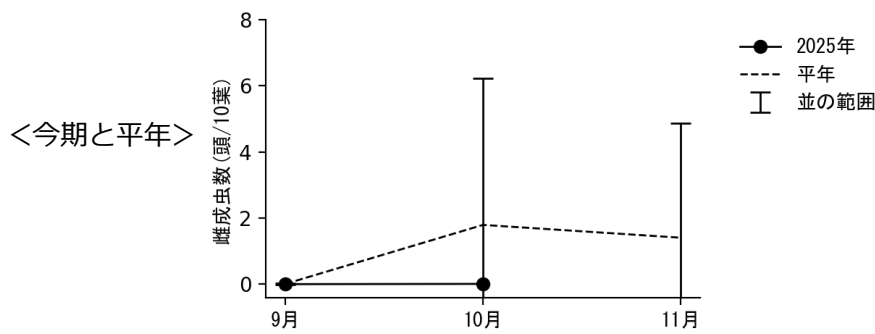
防除のポイント

- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		 ナミハダニ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ（黄緑型）
- ・発生ほ場率20.0%（平年：17.6%）

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。